

○「松見の滝」周辺の森林散策（森林ふれあい推進事業）を実施

「ブナ林の散策と松見の滝」と題して、応募者100名を超える中から抽選で選ばれた30名が参加し、森林ふれあい推進事業を10月20日（土）十和田市奥瀬字黄瀬山国有林内において実施しました。

この事業は、一般の方々に対し森林散策等を通じて自然に親しむ機会を提供することにより、国有林をより身近に感じていただくとともに、森林の役割やその重要性について理解を深めていただくことを目的として、流域管理アクションプログラム計画に基づき、毎年この時期に実施しています。

署長の挨拶の後、参加者は3班に分かれ片道約3kmのブナ林などの広葉樹林に囲まれた林道を松見の滝を目指し出発しました。

当日は、天候にも恵まれ木々も色づき始める中、各班の引率の職員とともに周辺の樹木の説明や松見の滝の由来などを交えながら、森林散策を楽しみました。

予定どおり松見の滝に到着し、その雄大な姿に感動しつつ、疲れを忘れて各々アングルを決めながらカメラに収めていました。参加者の中には、4kgもある三脚を担いで来られた方もいて時間を忘れて撮影をしていました。

松見の滝を背景に班毎及び参加者全員での記念撮影を行い、その後、昼食を済ませ下山し、次に日本一のブナ「森の神」を見学した後、閉会式を行い参加者からは「見たくても中々見られないので一度は見ておきたかった。天候もよく楽しい一日を過ごせた。」などの声が聞かれ、最後に署長のお礼の挨拶時には、参加者から自然と拍手が沸き起こりました。

全員ケガもなく無事に日程を終了し、思わぬ山の恵みもあり重いリュックと思い出を後に各自帰路に着きました。



出発前の挨拶をする署長



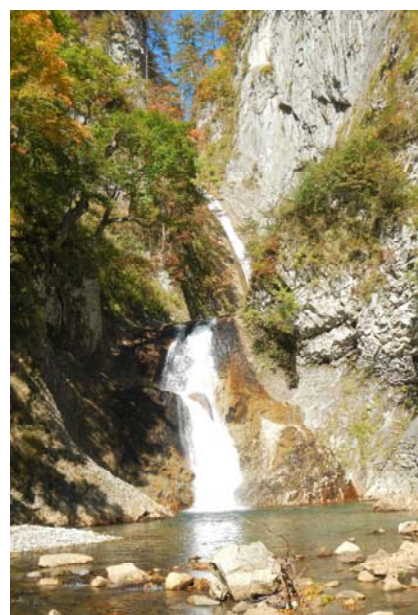
ストレッチ



力を合わせ倒木を乗り越え



全員揃って記念撮影



色づき始めた松見の滝